

シリーズ ■ 中学校武道

授業の充実に向けて ⑦

外部指導員の活用例 剣道

東京都荒川区立第五中学校 副校長 飯島 和弘

平成24年度から完全実施された中学校保健体育科における武道の必修化に応じて、本校では柔道と剣道を選択して、授業を展開している。

荒川区では武道必修化に向けて、準備段階から予算計上がなされたこともあり、用具が充実した状態で授業を行うことができた。

前任の体育科教員が、ちょうど開始年度に異動となり、着任した教員は剣道未経験であった。そこで本校剣道部に外部指導者で来られていた杉田徹也荒川区剣道連盟副会長に、授業でも剣道の指導にあたっていただけるように依頼。ご快諾をいただいで実施することができた。

本稿ではその実践内容を紹介したい。なお、指導の概要については杉田指導員にご執筆いただいた。



最後の授業では試合も行ったが、それなりの形になったと思うし、生徒も喜んでいただいていた

1 外部指導員活用にいたった経緯

本校には体育科の教員が2名おり、平成24年度より保健体育科の授業に武道が必修科目となることを受け、剣道と柔道の授業を実施することとした。

実施年度以前の準備段階時に荒川区からも武道における特別予算が計上され、剣道では新しい剣道具一式を38組と竹刀80本、その他

剣道用具を保管する棚や竹刀立て等を揃えることができた。しかし、

実施年度に剣道を選択した教員が異動となり、24年度に着任した体育科の教員は、大学時に剣道の授業を数時間行っただけで、大学卒業後は剣道の授業指導経験は全くなく、授業を進める上で不安があった。

そこで、剣道部の外部指導員として本校に指導に来られている荒川区剣道連盟副会長の杉田徹也先生に事情を説明し、剣道授業への協力を要請した。指導員としての

承諾を得ることができ、授業を実施するに至った。今年度で、剣道の授業は昨年に引き続き2年目となった。

2 役割分担

昨年度は指導員が主となり、体育科教員と講師の3人体制で10時間の剣道授業の実施計画を立てて実施した。講師(女性)が剣道経験者であったため、杉田指導員と講師で実技見本を生徒の前で見せることが出来た。

今年度は、昨年度の講師はおらず、体育科教員と杉田指導員の2人体制での指導となった。来年度以降の剣道授業の指導方法を見据えたうえで、指導を行うこととした。

協力者はあくまでも従であることを常に留意する」ことを授業終了時まで肝に銘じて授業にあたった。教員と生徒が、共に剣道を通じてより信頼関係が強まるよう、授業を進めていくことをねらいとした。

幸いなことに、学校側ではすぐに教員用の剣道着、袴を用意してくださったので、授業開始前、教員の着装を手伝い、剣道着姿の教員を生徒に見せることで、生徒に教員の剣道に対する姿勢を汲み取ってもらうことができた。

当初はあまり乗り気ではなかった教員も、ここに来て腹を括った。授業開始に当たって生徒に次のことを説明した。

1 体育の授業で武道が必修になった理由。

2 日本の伝統文化である武道。本校の授業では剣道と柔道を扱っているが、そこに含まれている精神的要素、礼法、その展開。

3 剣道の目的は、強い人格を形

3 指導の概要

はじめに、「体育教員を主にし、

平成 25 年度 武道（剣道）授業実施日一覧

日付	1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目
2月3日	1年1・2組男子	2年1・2組男子	3年1・2組女子	3年3組女子
4日	1年1・2組男子			3年3組女子
6日	1年1・2組男子			
7日		2年1・2組男子	3年1・2組女子	
8日		2年1・2組男子		
10日	1年1・2組男子			
12日	1年1・2組男子			3年3組女子
13日				3年3組女子
14日			3年1・2組女子	
17日	1年1・2組男子	2年1・2組男子	3年1・2組女子	3年3組女子
20日	1年1・2組男子			3年3組女子
21日	1年1・2組男子	2年1・2組男子	3年1・2組女子	
24日	1年1・2組男子	2年1・2組男子		
27日			3年1・2組女子	3年3組女子
回数	9回	6回	6回	7回

直ちに左足を引きつけ、体のバランスを保ち、退くときは左足から後退し、直ちに右足を引きつける足の動かし方が歩み足になりやすいので、反復練習が必要である。これらは通常初心者に1カ月くらいかけて体得させることであるが、時間の制約があり、十分に実施するのは容易ではない。

竹刀の打突部と相手の打突部位については、竹刀の中結いのあたり（物打ち）で面・小手、胴を打つことを説明し、正面、左右面、右小手、右胴の正しい打ち方を教えた。

また打突部位を想定しての素振りも行う。同一位置での素振りから、足を伴った素振りへと発展させ、動くうちに構えが崩れないよう留意する。

元立ちに向かつての基本打ちでは、打ち切るために打った後、体を前進させるため、踏み込み足にならなければならないが、この區別が判るのに、かなりの時間を要した。

次に切り返しでは、正面打ちに続いて連続左右面（前進しながら



生徒同士の実技

成すること。
自らの心が強くなければ、他人に優しくすることはできない。そのためにはこの寒い道場で、しかも裸足になって稽古をする必要もある。人生の中で時に我慢・忍耐が必要であり、この体験が役に立つと信じている。そう話すが、生徒にどれほど理解できたかは不明である。しかし、どこか頭の隅にでも残って、将来ふとしたときに思い出してくれることを願って話した。

さて、剣道の稽古は防具を着け

て竹刀で打ち合うことが主体である。刀から木刀へ、更に防具が考案されたことにより、相手を直接打つことが可能となり、稽古法が飛躍的に進歩した。打突部位も限定され、競技としても成立するようになった。しかしそれだけでは剣道の意義がない。剣道で重要な要素は礼法である。

通常、授業は体育館で行われるが、剣道の稽古をする場合は、同じ場所が「道場」となる。神聖な場所に対し、入退場時には敬意を表し、礼をする。ただ単に頭を下

げるお辞儀と「礼」は違う。相手に対し、感謝や敬意をもって礼をすることで、人間関係が潤いのあるものになる。授業とはいえ、道場体身につけた作法（礼法）を社会生活の中に活かすことが主たる目的である。

剣道授業で実際に行っているのは、整列、着座、静坐（あるいは黙想）、正面への礼、師への礼である。剣道部員は日常的に行っているの、敢えて一般生徒に号令をかけさせた。

最初は戸惑っていた生徒が、剣

道授業を通して、次第に姿勢、態度、発声が自信に満ちたものに変わってくるのは頼もしい限りである。

剣道である以上、剣道具を着用し、竹刀を握って相手と戦わなければならない。そのため技術の習得は必須の条件である。竹刀の握り方、足の踏み方、体の移動、構え方など、これらは剣道独特のものなので、何度も繰り返し練習する。

足の動き方については、送り足（進むときは右足から前に出て、

日本武道館に掲揚されている日本最大級の日の丸の実績

全日本少年少女武道錬成大会 刺繍旗

社旗 校旗など
 各国国旗
 のぼり・応援幕・バナー
 タスキ・腕章・半纏など
 トロフィー・楯・徽章
 デザイン作成もいたします



早稲田大学応援部 慶應義塾大学応援指導部 立教大学応援団

株式会社 三上旗店 (創業明治五年) ご用達

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-12-6 三上ビル

TEL:03-3663-8841 FAX:03-3664-8108 Mail:info@mikami-flag.co.jp URL:www.milkami-flag.co.jp

明治天皇の皇后の全事蹟を本邦初公刊! 『内容案内』送呈

昭憲皇太后 実録 全3冊 明治神宮監修

本編上下巻では、全生涯を時系列に記述。別巻には年譜・解題・索引を収録する。揃価 $\text{¥}45000$ (分売不可)

*昭憲皇太后百年祭記念出版

全ページカラー!

徳川吉宗と江戸城 岡崎寛徳著 $\text{¥}2000$

皇居東御苑・北の丸公園・寛永寺・小石川植物園…。8代将軍の生涯と、江戸城400年の魅力に迫る!

歴史文化ライブラリー

神や仏に出会う時 中世びとの信仰と絆 376

大喜直彦著 ユニークな切り口で中世社会像を描き、読者を身近な信仰世界への旅にいざなう。 $\text{¥}1700$

海外戦没者の戦後史 遺骨帰還と慰霊 377

浜井和史著 帰らぬ遺骨、終わらぬ戦後…。硫黄島・ビルマなど今も続く遺骨収容と戦没者慰霊の現実。 $\text{¥}1800$

墓と葬送の社会史 森 謙二著 $\text{¥}2400$

「墓」はこれからどうなるのか? 社会を映し出す鏡「墓」の歴史を読み解き、今後の課題を問う。(読みなおす日本史)

武蔵武士団 関 幸彦編 畠山・河越・豊島・比企・熊谷…。平家物語・太平記から浮かび上がる全貌! 【2刷】 $\text{¥}2500$

吉川弘文館 価格税別
東京都文京区本郷7-2-8・Tel.03-3813-9151
PR雑誌『本郷』定期購読受付中

4 課題とその対策

外部指導員との打ち合わせをする時間を確保することが大切である。そこで、時間割を工夫し、空き時間を利用して、授業のねらいと評価、計画性などについて、共通理解と実践を図らなくてはなら

した。ただ、最終日の試合が予想以上の出来だったことに満足すべからぬ。体育館を出ていく生徒が口々に「ありがとうございました」と言ってくれたのが嬉しかった。

今後外部指導員の活用は続けていきたいと考えているが、外部指導員が授業に入るにあたっては、授業の記録を日誌のような形で記録していただき、今後の指導資料としたいと考えている。

授業に入っていた外部指導員の条件としては、学校に対して十分に理解を示す方であることは必須である。地域の剣道連盟と連携し、推薦していただかなければならない。

また、外部指導員は剣道の専門家なので、授業後の剣道具や竹刀の保管、管理についての助言や修理などの協力をお願いしたい。



剣道部員には試合の審判も行ってもらった

四回、後退しながら五回)を行っていた。最後に、正面を打って元立ちの後方まで抜けるように指導した。切り返しは基本動作の総まとめともいえるが、竹刀と体の動きが一致するまでには相当の練習を積み重ねなければならない。

続いて、剣道具を着用しての稽古に進んだ。いきなり面を着けることはできないので、胴、垂、小手を着けて基本動作を反復練習した。しかし、日常生活の中で紐を結ぶ機会が少ないのか、着装に時間がかかった。特に胴紐の結束が難しい様子だった。次の授業からは、練習時間の確保を考えて、整列前に面以外を着けて集合することにした。

面以外を着用しての稽古に慣れたところで面を着けた。生徒を2班に分け、元立ちと掛り手を交互に換えて打ち込み稽古をさせた。打つ方も腰が引けて体が出ないし、受ける方も怖がつて逃げってしまう。ここまで出来るようになるには、通常少なくとも半年は必要である。しかし、最後の授業では試合まで経験させなければなら



紐の扱いに慣れていないのか、防具の着用にも四苦八苦する生徒が多く見受けられた